

子どもを真ん中にした社会保障へ

—— 手取りを増やし、未来をつくる ——

少子化は、もはや一分野の課題ではありません。

子どもが減り、現役世代が疲弊すれば、やがて高齢者福祉も社会保障制度そのものも立ち行かなくなります。

いま必要なのは、「負担を増やす前に、支える順番を見直す」こと。

私は精神科医として、そして子育て世代の一人として、子ども政策を社会保障の中心に据え、手取りを増やす政治を進めます。

政策1

障害児福祉の 「所得制限」を撤廃します

- 障害は選択ではない
支援の可否を、家庭の所得で決める制度は見直します。
- 必要な医療・福祉は、
すべての子どもに
治療や福祉、手当を等しく保証します。
- 家族を分断しない制度へ
きょうだいや親に過度な負担を押し付けない
仕組みをつくります。

政策2

子育て支援の 「所得制限」を撤廃します

- 子育ては社会全体への投資
支援は分断ではなく、普遍的な制度で行います。
- 働くほど損をする
「子育て罰」をなくす
頑張るほど働く家庭ほど支援が減る仕組みを
改めます。
- 安心して産み、
育てられる社会へ
2人目・3人目をためらわない環境を整えます。

政策3

年少扶養控除を復活し、 子育て世代の「手取り」を 増やします

- 子育て世帯の手取りを、
直接増やす
負担ではなく、実感できる支援を行います。
- 働く意欲と消費を後押し
中間層・現役世代を支え、経済を回します。
- 給付と負担のバランスを
取り戻す
「働き罰」を是正し、公平な税制へ近づけます。

原 ひろし プロフィール

精神科医

[生年月日] 昭和56年12月17日

[略歴]

平成24年 岡山大学医学部医学科卒業

岡山協立病院勤務

平成27年 岡山大学病院精神科神経科勤務

平成28年 林道倫精神科神経科病院勤務

- 香川県育ち、大学進学を機に岡山へ。
- 兄の精神疾患と父の脳腫瘍が重なり、家族を支えながら10年かけて岡山大学医学部医学科を卒業。精神障害の兄のきょうだいとして家族の苦悩を体感し、精神科医となる。
- 精神科医。岡山県在住。妻と4人の子ども、保護犬1匹と暮らす6人家族。